『思い思いの若者たち』

＜コロナ禍とひきこもり＞

理事　布袋 太三

不幸な事件に触発されてだったが、ひきこもりの問題が世間の耳目を集めだしてからもう 20 年をゆうに過ぎた。

関係する先人たちの地道な努力の結果か、もはや社会的な認知度は相当なところまで高くなり、ほとんどの人は「ひきこもり」という言葉を知ることとなった。しかも、その背景の諸事情についてもそれなりの理解を示すようになってきた。

かつては「怠け者」とか「根性なし」とか「あぶない若者」などと言う粗雑で心ない言葉が飛び交っていたことを思うとやはり大きな進展にちがいない。

実際、世渡りが下手で人間関係が少し苦手だったりする人はどこにでもいるわけで、そうした人たちが何かの軋轢や躓きに出会ってしまうと、現代のような社会ならひきこもりになってしまうのではないかという思いはかなり広く共有されるようになってきた。

「現代のような社会」とはあまりにスピード効率を優先させる社会という意味だ。

もちろん、多くの人々はできるならば身内にひきこもりが出られては困るという意識を内在させてはいるが、それでもひきこもる人の気持ちはなんとなく「わかる」ところまで理解は進んできていると私は思っている。

それに、ひきこもり者は大抵はメインストリームでなくても、ふつうに社会の担い手としてがんばり、隣人たちと緩やかに交流する日々を過ごしたいと思っていること、だからどんなに世の不条理を体感させられ続けてもそうした世間への対抗文化を生き方として持ちえないまま、叶わぬまでも「ふつう」の社会生活への復帰を待望している人が多いということもよく知られはじめてきている。

ところで、今はコロナ禍でどこもかしこもステイホームなどというもっぱら内向きの生活スタイルが推奨されている。

文字通りステイホームが常態のひきこもりにとっては家中が内に籠りだすという事態はかなり戸惑ってしまうことだろうと思う。

家人が仕事で出かけた後は彼らには安定した自由空間であった我が家がこの間どうも居づらい状態になってしまってはいないか。

おちおちひきこもってもいられないというかどうも居心地が好くない実感というか・・・。

実は私はそこで、こうした状況ならではの意外な家庭内コミュニケーションが自然発生的に生み出され、家族も紐帯や雰囲気が緩やかに軽快になってきたりすることがあるかもしれないと思っている。そして、ひきこもることも再び世の風にあたってみることも、家庭内でふんわりと認めあうようになっていったり、事態はたくまずして思わぬ新しい展開を見せるやも知れない・・・、などと。

コロナ禍だが、こんな意外な副産物がひきこもり青年とその家族にもたらされることがなぜか絶対に有りそうだと最近私はひそかに思っている。

R3.6.7 記

スタッフ紹介

相談支援員
岩本仁美

4 月からひなたの森の相談支援員として働いています岩本仁美です。
今までこのような対人支援の仕事をしたことがなかったので、日々先輩方や居場所に来てくれる方たちから学ばせてもらってます。
現在家におられる方々が、まず居場所に来て一歩踏み出せてもらえたら嬉しいなと思ってます。色んな資格も取りたいので、それに向けても頑張りたいと思います。
まだまだ分からないことだらけで不安もありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

就労準備支援「heartwork」

NPO 法人ハートツリーの就労準備支援事業「heartwork」は、利用者さまがさまざまな作業体験を通して働くために必要な生活習慣を身につけること、基本的な対人スキルやマナ を身につけることなどを目標にしています。
自信を取り戻しそれぞれに適した就労環境へつながっていくことを目指して支援に取り組んでいます。

こんな作業内容があります

●菓子工房

・材料の軽量　・焼き菓子の製造、成型　・焼き菓子の袋詰め　・器具の洗浄　・納品、販売のお手伝い

●パソコン関連

※パソコン関連は自主学習、講習会（現在未定）が中心です。

・illustrator　・動画編集　・イラスト　・資格取得学習 (P 検）など

●内職

・箱折などの軽作業

●その他

・講座　・講習会　・体験イベント
・ボランティア活動など